

## 板垣公一教授略歴

1943年11月 大阪府豊中市にて出生，豊中市近郊にて28年間在住する。

1943年—1948年 幼年時代（戦後の貧しい日本を背景に，手作りの遊び，遊戯に励んでいました。宝島ごっことか，プラモデルの前身の模型工作など。）

1949年—1962年 少年時代（戦後社会も経済面で落ち着き，高学歴社会に悩まされ，押し流されながら，学校勉強以外の趣味に嚙り付いていました。音楽や映画，カメラやアウトドアなど。）

1963年—1972年 青年時代（高度経済成長の時代を背景に，自己確立と自己実現を目指しました。仕事の方向は国文学にたどり着きました。生活面では，就職・結婚・家庭作りを一通り通過しました。）

1967年 3月 関西学院大学文学部卒業

1969年 3月 関西学院大学大学院研究科修士課程修了（文学修士）

1972年 3月 関西学院大学大学院研究科博士課程終了（単位取得）

1972年 4月 名城大学商学部講師就任，名古屋市近郊に転居。

1985年 4月 名城大学商学部教授

2000年 4月 名城大学経済学部教授

1972年—2008年（36年間） 名城大学教員生活。今年度をもって定年を選択しました。

2008年 3月 退職

### 主な研究

1. 近代日本文学～森鷗外の晩年作品を中心とした研究。永井荷風の小説世界を中心とした研究など。
2. 現代日本文学～志賀直哉研究。堀田義衛の現代社会評論の研究。
3. 日本文化社会論～日本文学空間を通して，現代社会を分析する手法の研究。

## 板垣公一教授研究業績

### 主な著書・論文

#### 〈著書〉

|                   |       |           |
|-------------------|-------|-----------|
| 『森鷗外—その歴史小説の世界—』  | 中日文化刊 | 昭和50年 6 月 |
| 『森鷗外の史伝—『渋江抽斎』論—』 | 中日文化刊 | 昭和56年 4 月 |

#### 〈論文〉

|                                 |               |      |
|---------------------------------|---------------|------|
| 鷗外史伝の成立—『渋江抽斎』の意義—              | 日本文芸研究2/1.2   | 1969 |
| 坪内逍遙の『小説神髓』の写実理論—小説理論の研究—       | 日本文芸研究21/4    | 1969 |
| 『山椒大夫』の世界—鷗外歴史小説論の課題—           | 日本文芸学 5       | 1970 |
| 鷗外『青年』の世界—象徴主義世界観の定立—           | 日本文芸研究22/3.4  | 1970 |
| 漱石『文学論』の研究—情緒的浪漫主義をめぐって—        | 関西学院人文論究21/3  | 1971 |
| 『草枕』の方法—自己表出の基本構図—              | 潮流 1          | 1971 |
| 『雁』の世界—構成的完結性をめぐって—             | 潮流 2          | 1972 |
| 『堺事件』の世界—ロマネスクと悲劇性—             | 潮流 2          | 1972 |
| 五條秀麿物の世界—神話の蔵する〈核〉をめぐって—        | 日本文芸研究24/1    | 1972 |
| 『三四郎』論—重層的構造をめぐって—              | 潮流 3          | 1972 |
| 『阿部一族』論—武士道倫理の史的座標—             | 潮流 5          | 1972 |
| 『興津弥五右衛門の遺書』論—〈個性的〉自我の視点から—     | 名城商学別冊22      | 1972 |
| 『大塩平八郎』論—行動的特性と傍観的特性—           | 潮流 6          | 1973 |
| 鷗外『大塩平八郎』の典拠（一）—幸田本『大塩平八郎』との関係— | 潮流 7          | 1973 |
| 鷗外『栗山大膳』の典拠—『列侯深秘録』との異同—        | 名城商学会報23      | 1973 |
| 鷗外『安井夫人』論—希求的行動者と傍観的認識者—        | 名城大学人文紀要9.10集 | 1973 |
| 鷗外『山椒大夫』の典拠                     | 潮流 8          | 1973 |
| 鷗外『ちいさんばあさん』論—運命の暴圧と精神の自立性—     | 名城商学別冊23      | 1973 |
| 鷗外『栗山大膳』論—原型理念的忠誠観を中心に—         | 潮流 9          | 1974 |
| 鷗外『最後の一句』論—献身の批判性と自己規制について—     | 潮流10          | 1974 |
| 鷗外『佐橋甚五郎』論—その主題と鷗外の主観性について—     | 名城商学別冊24      | 1974 |
| 『津下四郎左衛門』試論—二つの個人史をめぐって—        | 潮流11          | 1975 |
| 『護持院原の敵討』論—一字平の評価を基点として—        | 潮流12          | 1975 |
| 『渋江抽斎』の世界像（一）—渋江保の位置—           | 名城商学別冊28      | 1979 |
| 『渋江抽斎』の世界像（二）—矢嶋優善の位置—          | 名城大学人文紀要21.22 | 1979 |
| 『渋江抽斎』論—渋江五百の人間像—               | 名城商学別冊29      | 1980 |

|                                             |               |      |
|---------------------------------------------|---------------|------|
| 『洪江抽斎』論考—抽斎の後裔達の位置—                         | 名城大学人文紀要23,24 | 1980 |
| 森鷗外の史伝—洪江抽斎の人間像—                            | 名城商学別冊30      | 1980 |
| 洪江抽斎の周辺—貞固・忠兵衛・栄次郎・宗右衛門の位置—                 | 名城大学人文紀要25,26 | 1981 |
| 『すみだ川』の構図—文化的伝統を基軸として—                      | 名城商学別冊31      | 1982 |
| 『夢の女』の主題—情緒的関連について—                         | 名城商学別冊32      | 1983 |
| 『冷笑』の軌跡—諦念と美的憧憬について—                        | 名城商学別冊33      | 1984 |
| 『柳さくら』論—戯作者の自卑と荷風の倨傲—                       | 名城大学人文紀要31    | 1984 |
| 『腕くらべ』論—二元的テーマと荷風の思想について—                   | 名城商学別冊34      | 1985 |
| 『伊澤蘭軒』の方法                                   | 名城大学人文紀要42    | 1991 |
| 『あめりか物語』論—「悪魔主義」の形成について—                    | 名城大学人文紀要44    | 1992 |
| 『ふらんす物語』論—夢工房の国、ふらんす—                       | 名城大学人文紀要47    | 1994 |
| 『墨東綺譚』論—主題論「夢空間との出会いと別離」—                   | 名城大学人文紀要50    | 1995 |
| 『つゆのあとさき』論—男の執念の物語—                         | 名城大学人文紀要53    | 1996 |
| 『ひかげの花』論—虚無的思想から幸福の原点へ—                     | 名城商学別冊46      | 1997 |
| 森鷗外『舞姫』論覚書—どのように読まれてきたか—                    | 名城大学人文紀要54    | 1997 |
| 『舞姫』小論—諸家の作品論の定説化と読みの構築—                    | 名城大学人文紀要56    | 1997 |
| 翻刻資料『抽斎歿後』（校訂）—『抽斎歿後 単』洪江保（抽斎歿後の洪江家と保 附五百）— | 名城商学別冊47      | 1998 |
| 翻刻資料「抽斎親戚並門人単」（洪江保筆）〈校訂〉                    | 名城大学人文紀要57集   | 1998 |
| 『洪江抽斎』と「抽斎歿後」（論説）                           | 名城商学別冊48      | 1999 |
| 『暗夜行路』試論—更新される自我—                           | 名城大学人文紀要65    | 2000 |
| 『暗夜行路』論—日本文化・社会論の視座から—                      | 名城論叢3/3       | 2002 |
| 漱石『三四郎』論—秘められたドラマ—                          | 名城論叢4/3       | 2004 |
| 漱石『それから』論—パラサイトシンドロームの前例—                   | 名城大学人文紀要80集   | 2005 |